

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271700124		
法人名	特定医療法人 玄州会		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	
所在地	長崎県壱岐市郷ノ浦町東触字平1010番地1		
自己評価作成日	平成27年10月24日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年12月1日	評価確定日	平成27年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営方針 ①ゆったりとした生活:入所者各自の生活ペースに合わせる ②楽しく:入居者と共に各種行事や趣味活動に取り組み、毎日の生活の中で生きがいづくりができるように、楽しい憩の場づくりをする ③自由にありのままに:入居者の自己決定権を尊重し、入居者が生活の主体となりその人らしく生活していけるように、できる限り入居者の希望や要望を取り入れたケアをする。</p>
--

<p>壱岐市にある“グループホームみのり”は27年4月から新体制になっている。新しい主任を中心に職員の結束を深め、管理者(看護師)からのアドバイスを活かし、ご利用者個々の喜怒哀楽などに向き合ってきた。行動の原因(ご本人の想い)を分析し、解決策を導く視点の習得に努めてこられ、「お墓参りに行きたい」「白内障の手術をしたい」など、ご本人の要望と意思決定を大切に、家族との話し合いも続けてこられた。ケア内容の振り返りも行われ、事例検討会で意見交換をする機会も作られた。職員個々の意見やアイデアも増えており、災害対策の企画も素晴らしく、自然災害や原発事故等を想定した訓練回数を増やされた。冬場や雨天時の訓練方法も検討し、模造紙にホームの見取り図を描き、ご利用者を想定した切り絵も作成し、職員のシミュレーション能力を高める訓練も行われている。今後もご利用者の「できそうな能力」「行動の背景」等を含めたアセスメント内容を追加すると共に、短期目標を具体化し、『ゆったり、楽しく、自由にありのままに』生活ができるように努めていく予定である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内へ掲示、年度当初の目標設定時に、新規入居者、実習生などへの説明。ミーティング時など職員間での確認を実施している。	管理者はホームの未来を見据えた人事を検討し、適材適所の異動も行われている。27年4月から主任を含めて新体制となり、全職員で理念を共有し、チームワークを強化してこられた。ご利用者の心身状況や病気に向き合い、喜怒哀楽や行動の背景に目を向けられるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し道路清掃、除草などへの参加協力。火災(夜間)時の消防署、消防団との連携。	管理者が中心になり、地域連携を深めてこられた。ホームの事を理解して下さる方も増え、中学生の訪問や伝統行事の“山笠の唄子”の披露で子ども達が来られたり、年2回、婦人会の方が家族会のサポーターで料理作りに来て下さっている。	今後は「地域の縁側の存在になりたい」と考えている。ホームの畑で育てている「お芋」をきっかけにした「集い」等を企画し、子ども達や青年会、地域の方に気軽に訪問してもらえる関係を築いていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会役員さんへ介護保険サービスの内容、認知症の対応、排泄介助の実践などについて話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度末の反省を次年度の計画に盛り込み、1年間の計画の中で実践、意見交換、反省の繰り返しをしていく、家族面談で苦情、要望を確認。	食事会や家族会を組み合わせ、ご利用者と参加者の方々が交流できる機会になっている。自治会長や婦人会の会長等が交代になり、新しい会長等に会議への参加協力依頼も行われた。「介護体験」や「自分の未来」を語り合う機会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	吉岐市の医療、福祉の主会議へ理事長参加、情報交換ができています。みのり広報紙の配布。	運営推進会議の案内は、管理者が市の課長に持参している。「マイナンバー制度」の質問や、障害年金、原爆特手手当金等の相談をした時も、親身にアドバイスを頂いている。医師とケアマネの勉強会では、地域包括の方との情報交換もできています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フィジカルロックはしない。離設のリスクの高い新規入居者には家族との話し合いをしっかりとしている。	日々の見守りを続けると共に、転倒リスクの説明も家族にしている。スピーチロックについても職員各自の自覚を求め、声かけの注意も適宜行われている。行動障害への対応方法も検討を重ね、喜怒哀楽の背景を見つめる視点が深くなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしない、させないを合言葉に入浴時の全身観察、異状報告を徹底している。ニュースでの報道を職員間で意見交換している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	光風の社会福祉士等に依頼して新規入居者、家族へは説明が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	みのり内の生活を見学していただき、重要事項、サービス内容、事故件数、内容など今までのケース事例を正直に話している。解りやすく、質問しやすい雰囲気作りにも努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議後の家族面談の機会を作っている。職員の担当で家族との連携を図っている。誰にでも話しやすい雰囲気作りを目指している。	日々の生活や治療方針、ケア内容を含め、常に家族と一緒に検討できるよう、話し合いの機会を作り、必要に応じて自宅での家族会議も行われた。「家族の方は遠慮があるかもしれない」と言う思いを大切に、「何か要望はないですか」と職員から家族に声かけしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談での目標設定、昨年度の反省。定期的ミーティングでの意見交換。みのりでの役割分担を決めている。	行事等を企画する時も、単なる「参加」ではなく、職員が「参画」する姿勢を大切にしている。管理者と主任が職員の個人面談を行い、職員個々の要望を伺っている。勤務時間や休憩時間の現状及び課題も検討し、職員のアイデアを実践しながらも、効果測定を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談時には10年先の自分像のイメージをしてもらい、資格、研修、人事、会社への要望、健康面等を話合えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の職歴、人事、研修、資格所得を把握し、1年間の目標等を共有してやる気を後押しできる体制づくり、研修参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玄州会、壱岐の郷、壱岐病院等の研修参加、症例発表会等での意見交換会、GH大会への参加。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅、病院入院中の様子、通所サービス等での情報を基に家族、本人の希望、不安を確認しながらケアの説明をして同意を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	みのりの環境、生活を実際に見学して、感じていただく。本人と家族の希望、不安の違い等を確認する。話しやすい雰囲気作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望される生活を知り、実行にあたってのリスク、事故等を予測しみのり内ではできない事にたいしても光風からの応援体制で実現している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	みのりの家族として双方の役割を確認し趣味を知りチームでの楽しみ会、行事を計画している。人生のよき先輩であり時には我が親、祖母と重なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを毎日の生活の中から家族へ伝える。希望に添えるように家族と話し合いを持つ、家族記念日を作って頂くように進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面談にて家族記念日の計画、誕生日等に自宅への外出、お盆の墓参りなどを話し合ってもらう。	生活歴を把握し、アセスメントに残している。ボランティアの方と一緒に絵手紙を作成し、家族に郵送したり、職員と馴染みの美容室やスーパー、お墓参りに行かれている。隣接するデイサービスを利用していただ方もおられ、デイの利用者と交流する機会も作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みのりの家族としての関係作りを勧めている。入居者間、スタッフ間の関係把握に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	みのり退所された後も家族、本人との面会等話す機会を作っている。入院中のお見舞いを兼ねて定期的に話に行く、光風入所でお話を聞く、買い物先等でお話をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からヒントを得て、話が膨らむように話しやすい雰囲気づくりをしている。行動に移す前に本人に確認をしたり意向を尋ねたりしている。	生活歴を大切に、ご本人の望む暮らしの把握を続けている。信仰も把握し、願いが叶ったお礼参りにお連れすることができた。「買い物に行きたい」「家に帰りたい」「お酒が飲みたい」「お墓参りに行きたい」「白内障の手術をしたい」など、ご本人の意思決定を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス事業者へ出向く、お話を聞く、工夫されてあった関わり方を知る。情報を整理してスタッフ間で意見交換をもちイメージを膨らませる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅、入院中等の生活の仕方を把握しみのりの生活の中でも取り組めるようにしている。パズル、学習療法、カラオケ、体操等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面談で希望、苦情が出やすい雰囲気作りを努めている。スタッフ間でも意見が出やすいチームづくりにつとめている。	主治医から転倒予防や排泄、食事のアドバイスを頂き、OTやPT、管理栄養士等とも連携している。調理の手伝いや掃除、洗濯物たたみ、芋ほりなどの役割や楽しみと共に、信仰心も記入し、母体施設(光風)でのリハビリ訓練も盛り込まれている。	ご本人の生活歴や有する能力、各活動の要望等のアセスメント記録を増やすと共に、日々の役割や「買い物に行きたい」等の望む暮らしを1表に記載し、その願いを叶えるための方法や目標(2表)を具体化していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察、記録の大切さ、生活の中での様子から声掛け、関わり方の工夫を共有してケアに当たっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	光風でのリハビリ訓練、外出時の送迎対応、福祉用具の借用、管理栄養士への相談、Nsへの応援、学習療法の準備品、歯科往診、美容師さんの出張依頼など。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事参加、ボランティアの方の慰問、公園、遊園地、花畑などへのドライブ、外食など老岐の自然を感じてもらえるように社会参加ができる方向で取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニックからの定期的な往診、急変時の診察、他専門病院との連携、Nsの付き添い、家族への連絡体制など支援している。	職員の観察力も高く、早期対応に繋げる事ができ、管理者(看護師)と主治医との意見交換も密に行われている。管理者等が通院に付き添い、急変時は通所サービスや老健の看護師との連携もできている。主治医の往診もあり、サービス担当者会議でケアの指示を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、クリニックのNs、DSのNs、光風のNsとの連携が夜間でもできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看介護添書の作成、家族の希望、管理者が入院中のムンテラへも出席、大学Hpは地域連携室との情報共有を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時家族へ説明、意向確認。光風および病院との連携、チームでの情報共有。	入居申し込みに「今後の方向性」があり、家族に記載して頂いている。「最期までここで」と希望する方も多く、26年度に看取りケアが行われた。27年度も誤嚥予防や看取りケアの学習会を行い、医師や看護師等との話し合いを続けており、職員個々のレベルアップを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会への参加、急変対応の実践、医療機械の整備、マニュアル作成、カンファレンスの機会に不安、質問に答え、イメージトレーニングや実演を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜間の火災避難訓練は消防署、消防団、地域の皆様の協力を得て実施。火元を変えて避難場所、避難方法の工夫をしている。今年1年間は色んな災害を想定して1回/月で実践し反省、評価マニュアル改正をした。	建物全体はオール電化である。併設通所介護と託児所職員、消防署、市役所職員、老人会などの方も参加して下さり、19時30分からの訓練を行っている。職員の企画で、27年4月から台風や津波、竜巻、落雷、原発事故を想定した訓練が毎月行われ、誘導時間も早くなっている。ご利用者も避難後に外食などの楽しみを企画した事から、積極的に参加して下さっている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	寄り添える、見守る関係づくり、否定的、抑制的な言葉かけをせず心地良い、優しい声掛け、対応に努めている。	人生の大先輩である事を肝に命じ、日々のケアを行っている。ケアを行う時は意向を聞き、さりげない支援に努めている。“みのりの理念”を振り返り、馴れ合いに気をつけると共に、“介護のプロ”として個々のご利用者に寄り添うケアを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に傾聴、話しやすい関係づくり、会話の中から個々の入居者の思いを知る、感じとれるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、表情によって、食事、入浴、休息、排泄等を入居者ご本人に合わせている。状況によっては屋外での散歩、カラオケ、体操等気分転換の工夫実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て衣替え実施、受診、外出時のおしゃれ、出張美容師さんへのカット依頼、義歯の装着、帽子、ひざ掛け、ネックチーフ等での工夫につとめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事を大切に旬の物を取り入れ、一緒ににおにぎり、おはぎ、甘酒、ぜんざい作りなどをしながら季節を感じてもらう。	「芋が食べたい」等の要望も聞かれ、畑で収穫した芋で様々な芋料理が作られた。家族からの差し入れもあり、食材として使わせて頂いている。季節の旬の料理が作られ、ご利用者も筍の皮むきやモヤシの根取り、お盆拭き等をして下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好、嚥下状態等の状態観察、水分量の確保、食器の工夫、盛り付け量、トロミの付け方等毎日の調理担当者が工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科健診の実施、3食後の口腔ケアの実施、義歯の装着、消毒、破損状況確認をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表作成で確認、尿、便失禁は減った。夜中、早朝の便失禁調整が出来た。	下着を使用し、トイレで自立している方もおられる。排泄パターンを把握し、体調や気分、表情等に応じて、必要な声かけを行い、失禁を減らすように努めている。排尿量に応じたパットのサイズを検討し、体調に応じてポータブルトイレを利用するなど、個別に応じた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜のメニュー、ヤクルト、牛乳、ヨーグルト、バナナの摂取、摂取量、水分量の確保に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉好き、風呂が好き、希望される方へは入って頂けるように配慮している。	立位困難な方も安楽に入浴できるように特殊浴槽を設置しており、今後もデイのリフト浴の利用も検討予定である。湯加減の希望等を聞いており、入浴時は「温泉に入りたい(長山温泉に行きたい)」など、職員との会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の強い時、排便前等の配慮。失禁時の入浴介助実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者服薬一覧表作成にて確認。効能、副作用の把握、変更時はクリニックNSとの情報共有、嚥下に問題のある方の飲み込みを確認しNSとの連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味やできる能力を生かした関係づくり、穏やかな生活の中にも活力ある生活を楽しんで頂くよう行事、季節を感じてもらおう生活の工夫を計画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	光風へ買い物、車いすでの散歩、Pリハへの農園見学。	毎月の避難訓練の後に、ドライブを兼ねた外出(夕食)に行かれており、「今日はどこに行く？」と、ご利用者も楽しみにされている。ホーム周辺の散歩をしたり、花見や地域行事にお連れしており、家族と買物や夕食に行かれる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週1回は家族同伴で外出し、買い物を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族あての暑中見舞い、絵手紙を作成して郵送した。ご家族からの返事に喜び顔あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダー、テレビ、ソファ、テーブル、イスの配置。休憩時座る場所、食事時入居者個々の安定した場所の確保。行事ごとの写真、作品等の掲示をして心地良い空間作りに努めている。	天井が高く、リビングも広いため、温湿度調整に気を配っている。ボランティアの講師の提案で、ホームの空間を心地よく彩るために、花飾り等をご利用者と一緒に作成し、「壁面アート」と題して飾り付けをしている。季節の飾りや日々の写真も貼り、家族に見て頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新規入居者が早く慣れて頂く為に食事、ソファなどの場所を話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使ってた、化粧水、乳液を持ち込んで頂いた。枕、毛布などの持ち込み。家族写真の掲示。好きな音楽を流す。	フローリングに畳を敷いている部屋もある。畳と床の段差ができないように工夫し、転倒予防に努めている。クロスワードを居室でされたり、週刊誌や魚の図鑑を読まれる方や、縫物をされる方もおられる。家族の写真も飾り、職員との会話のきっかけになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、車椅子でも動きやすいように、みのり内環境整理。入居者の部屋が理解しやすいように表示。転倒リスク考慮で早期にベッドか畳の環境の検討。		